

実践報告・研究発表の概要

【研究発表・実践報告①】13:15～14:35

【A-1】

【道徳】児童・生徒が深く考え振り返ることができる授業実践の研究

神奈川県教育研究所連盟関連発表

座間市立栗原小学校 教諭 深澤 隆史
座間市立座間小学校 教諭 与那覇 雅康
座間市立座間中学校 教諭 梅原 健人
座間市立西中学校 教諭 石井 大地

児童・生徒が深く考え、振り返るためには、主発問や問い返しの工夫が大切だと考え、そこに重点をおき、研究を進めています。市の道徳研修会で、十文字学園女子大学浅見哲也教授から「人間理解・他者理解・価値理解」という考え方を学び、3つの理解を踏まえた発問づくりに取り組んでいます。また、問い返しの工夫では、児童生徒が考えを深めることができるように、児童・生徒の心をゆさぶる発問を心がけています。市内の先生方に道徳教育に関するアンケート調査を行ったため、先生方が日々の実践の中で困っていることなど、課題に対する改善案も提案できればと思い、研究を進めています。

【B-1】

① 教育課題調査研究 第13回「学習意識調査」報告
—藤沢市立中学校3年生・60年間の比較研究—

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立八松小学校 教諭 泉 翔 太
藤沢市立俣野小学校 教諭 上村 歩
藤沢市立新林小学校 総括教諭 坂倉 美和
藤沢市立湘洋中学校 教諭 村井 裕也
藤沢市立片瀬中学校 教諭 二宮 真之

藤沢市の児童・生徒の今日的教育課題について調査研究を行うことを目的としています。研究にあたっては「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣調査」等の結果も踏まえ、広い意味で今後の教育のあり方について模索検討し、その成果を学校教育計画立案並びに生涯学習推進のための基礎的資料として提示していきます。

② 教科・領域等研究 社会科
子どもが質のよい問いを追究する社会科の授業づくり

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立鵜野小学校 教諭 丸山 大輝
藤沢市立富士見台小学校 教諭 甘粕 太志
藤沢市立滝の沢小学校 教諭 服部 紗季
藤沢市立善行中学校 教諭 木村 健太郎
藤沢市立高倉中学校 教諭 田畑 颯太

「社会科の授業における「質のよい問い」とは、どういうものかについて話し合いを重ねてきました。そして、子どもが「質のよい問い」を追究する授業づくりをするために必要な①教材の工夫と②単元計画の工夫について研究を進めてきました。これらの成果と課題を研究報告書としてまとめましたので、その内容について紹介します。

【C-1】

- ① 生徒が自らの学習の状況を把握することで学習意欲の向上を目指す授業デザイン
— 高等学校数学における振り返り活動を軸に構成した授業を通して —

令和7年度 総合教育センター長期研究員
県立大船高等学校 教諭 中谷 公彦

これからの学校においては、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められている。発表者が担当していた数学科の授業においては、「分からないところが分からない」といった、自らの学習の状況を把握することに困難を抱えている生徒が多い。そこで本研究では、振り返り活動を軸に構成した授業をデザインし、実践した。その結果、生徒が自らの学習の状況を把握する「振り返り活動を軸に構成した授業」を通して、学習意欲の向上に一定の有効性が確認できた。

- ② 教職員の積極的な対話による相談しやすい関係づくりに向けて
—1人1台端末を活用した絵文字による健康観察を通して—

令和7年度 総合教育センター長期研究員
横須賀市立追浜中学校 養護教諭 柏原 絵里子

保健室に来室する生徒の中には、頭痛や腹痛などの要因を伝えられない、様々な課題や困りごと、不安や悩みがあっても表現や相談ができない生徒がいる。養護教諭として、そのような生徒と丁寧に関わる中で、積極的に対話を重ねていくことの重要性を感じた。そこで、本研究では、1人1台端末を活用した絵文字による健康観察が、教職員と生徒の対話のきっかけや教職員同士の生徒理解に向けた対話の手掛かりとなり、その積み重ねは生徒が相談しやすい関係づくりにつながると考え、検証実践をした。生徒の心身の変化を早期に発見するためのICTの活用や人によって解釈の異なる曖昧な絵文字を利用した毎日の健康観察は、教職員と生徒が対話をするきっかけとなった。また、教職員同士においても生徒についての多面的な情報の共有が対話の機会を増やし、生徒の理解につながった。このように、教職員と生徒、教職員同士の対話の積み重ねが生徒の安心や信頼につながり、相談しやすい関係づくりに向けて一定の成果があった。

【D-1】

- 定時制高等学校におけるプロアクティブな生徒指導の充実を目指して
—HR 経営に関する職員研修とグループアプローチの実践—

令和7年度 横浜国立大学教職大学院生
県立相模向陽館高校 総括教諭 今井 健太郎

多様な生徒が在籍する単位制による昼間定時制の高等学校において、プロアクティブな生徒指導を充実させることを目的とした。ホームルーム経営に関する職員研修と2年次を対象にグループアプローチの実践を行い、プロアクティブな生徒指導を見据えたホームルーム経営の意識向上を目指して取り組んだ。

【E-1】

学校コンサルテーションの実践を支援する行動観察支援ツールの開発に関する研究
～教育相談コーディネーターに求められる専門性の向上に向けて～

県立鶴見支援学校 教諭 戸井田 直子

特別支援学校のセンター的機能において教育相談コーディネーターに求められる専門性を明らかにし、学校コンサルテーションの実践を支援するツールの開発について研究を行った。教育相談コーディネーターと専門職らの協力のもと、経験の浅い教育相談コーディネーター等が活用できる行動観察支援ツールを開発した。子どもの発達や特性を踏まえた行動観察をするためのヒントとなるツールの開発を目指した。

【F-1】

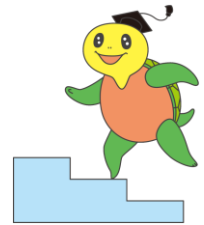
「共に生きる」社会の実現を目指して
幼稚園における個を大切にしたクラスづくりと小・中学校とのつながり

小田原市立酒匂幼稚園 園長 古木 美貴
県教育委員会教育局 支援部子ども教育支援課 指導主事 酒井 亮子

幼児一人ひとりを生かしたクラスをつくるためには、どのような個の捉えや、環境の構成・援助が必要であるか実践を積み重ねてきました。幼児教育が大切にしている「遊びを通した学び」と、小・中学校での学びとの関連を説明しながら、研究の実践を発表します。



【研究発表・実践報告②】15:10～16:30



【A-2】

心理的安全性を高める学級経営による学校適応の実証的研究
～学級目標を手がかりとした「安心して挑戦できる風土」づくりの探究～

神奈川県教育研究所連盟関連発表

横須賀市立衣笠中学校 教諭 横手 謙

学級目標を基盤として、生徒が安心して過ごし、挑戦できる学級風土づくりを目指した実践研究である。「意味細分化・行動具体化」「意味づけと声かけ」「ふりかえりタイム」の3つの手だてを通して、学級目標の内
在化と心理的安全性との関係を探った。

【B-2】

- ① 教科・領域等研究 算数・数学科
学び方の価値観の変容をめざす算数・数学の授業
～直観的な考えをもとに検討・修正する体験を通して～

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立新林小学校 教諭 石井 裕貴
藤沢市立鵜南小学校 教諭 鈴木 育未
藤沢市立大清水小学校 教諭 工藤 琢人
藤沢市立善行中学校 教諭 小池 一樹

間違いを恐れて何も手がつかないといった子どもたちを巻き込み、みんなで考える授業づくりに取り組んできました。どの子も課題に向き合うことができるように、まずは、子どもたちの直観的な見通しや類推を大事にする手立てに着目しました。次に考える過程では、他者の考えに触れ、協働して粘り強く検討・修正する授業展開を考えました。子どもたちがこのような授業を体験する中で、間違いは新たな考えを生み出すための材料であることや自分や友だちの考えを比べて考えることが大切であることに気づき、学び方の価値観を変容させていくことを目指しました。

- ② 教科・領域等研究 理科
主体性を発揮できる授業改善
～自己肯定感を高める OPPA の活用～

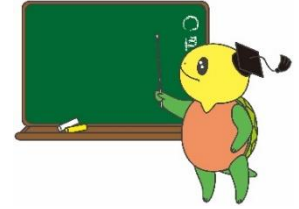
神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立御所見小学校 教諭 岩政 修司
藤沢市立善行小学校 教諭 永田 理佳
藤沢市立中里小学校 教諭 宮生 彩子
藤沢市立御所見中学校 教諭 成川 玲也

子どもたちが主体的に学習に取り組むようになるためには、自己肯定感の向上が必要であるというところから、自己肯定感を高めるには、適切な自己評価、他者評価が必要と考えました。OPP(ワンページポートフォリオ)を活用すること、自分の考えや出来事、気づいたことが記録され、自分を見つめることができます。自分を認められれば、他者も尊重できます。思考の言語化・メタ認知のプロセスが自己調整力を高め、殻を破り自由に発展していく学習活動につながります。子どもたちも教員も試行錯誤しながら、失敗しても工夫しながら取り組み続けられる授業を目指しました。「わからない」「書けない」が学習のスタートです。

【C-2】

「西高力」でつなぐ！「総合的な探究の時間」と「教科学習」
—「理数探究基礎」への挑戦—



県立藤沢西高等学校 総括教諭 近藤 誠

教育課程研究開発校(総合的な探究の時間)の指定を受け、令和4～8年度に取り組んだ研究実践報告です。「西高力(生徒に育みたい資質・能力)」で総合探究と教科の授業を接続する授業改善と令和8年度から導入する「理数探究基礎」の立ち上げまでを発表します。

【D-2】

特別支援学校における授業づくりを支援するための教師の柔軟な学習環境デザイン

令和7年度 横浜国立大学教職大学院生
県立中原支援学校 教諭 佐々木 佳奈子

本研究は、多様な働き方の教師集団において、さまざまな部門や学部に共通し、子どもたちや教師の実態や状況に応じて対応ができるように、特別支援学校の授業づくりを支援するための教師の柔軟な学習環境をデザインすることを目的として取組を行いました。校内研究における授業検討のあり方に着目して行われた実践について報告します。

【E-2】

モヤっていませんか？「インクルーシブ教育」踏み出す一歩！
—足柄小学校での具体的な取組—

県立小田原支援学校 教諭 渡邊 隼人

足柄小学校での人的交流の実践報告

「インクルーシブの理念はもう知っているけど・・・」「どこから何をはじめてら・・・」といったスタートから、特別支援学校教員が地域の小学校へ行き、取り組んだ「みんなが過ごしやすい学校」を目指した具体的な実践報告。インクルーシブ・マインドを育むためのアプローチとして、子どもの困り感を可視化する「教室に支援グッズ設置」、小学生～大人まで、系統立てて作ったインクルーシブ授業等を紹介させていただきます。

【F-2】

校内支援センターを通じた学校や地域との連携

認定 NPO 法人鎌倉あそび基地 理事長 水澤 麻美

当団体が鎌倉市内小中学校における「校内フリースペース」の伴走支援に入って2年が経過し、取り組みの意義と様々な課題が浮き彫りになってきています。限られた人員で、増え続ける不登校にどのように対応していけばよいのか。いくつかの事例をもとに考察します。